

シグマ研究委員会  
昭和62年度第5回運営委員会議事録（案）

日 時： 昭和63年1月18日（月） 13:30～18:10  
場 所： 日本原子力研究所 本部 第1会議室  
出席者： 鹿園（委員長：原研）、梶山（東北大）、中沢（東大）、  
中嶋（法大）、村田（NAIG）、若林（動燃）、五十嵐、  
水本（原研）  
幹事           ： 浅見、中川（原研）  
オブザーバー： 飯島、川合、吉田（NAIG）、瑞慶覧（日立）、  
松延（住友原工）、柴田、菊池（原研）

配布資料

1. 62年度第4回運営委員会議事録（案）
2. 会合開催状況
3. 62年度旅費使用状況
4. 核データ・炉物理合同特別会合
5. 国際核融合炉用核データライブラリー（IAEA専門家会議報告）
6. A.B. Smith 氏から五十嵐氏への手紙
7. 核データ国際会議発表論文件数
8. 核データ国際会議発表論文タイトルと著者リスト
9. A.B. Smith 氏から崩壊熱コード比較に関する手紙
10. NEA Data Bank の組織変更
11. シグマ特別専門委員会議事録抜粋と内規
12. 核種生成量評価WGの活動
13. 医学用原子分子・核データWG 1988年度作業計画
14. 崩壊熱評価WG 62年度の活動と63年度計画

議 事

1. 前回議事録確認  
前回議事録（配布資料1）を確認した。

## 2. 事務局報告

- (1) 浅見氏が配布資料2により10月以降の会合開催状況を報告した。
- (2) 浅見氏が配布資料3により現在までの旅費使用状況を説明した。

## 3. 原子力学会特別会合

4月の原子力学会、年会における核データ・炉物理合同特別会合のプログラムについて中川氏が報告した。

## 4. I N D L / F 会合報告

昨年11月16～18日ウィーンで行われたITER用核データライブラリーI N D L / Fに関するIAEA専門家会議の様子を配布資料5により柴田氏が報告した。

## 5. J E N D L - 3 編集状況

浅見氏から、核データ研究会で指摘されたJ E N D L - 3の問題点の整理をJ E N D L 編集グループ行ったこと、I N D L / Fとの関連で、F、Mg、Vのファイル化をいそぐこと、J E N D L - 3 Tの引用方法を評価者や利用者に連絡したこと、等が報告された。

五十嵐氏が配布資料6 (J E F, E N D F, J E N D L間の情報交換に関するA. B. Smith氏の手紙) に対して、J E N D L 編集グループにレポートを作ってもらふことにしたと報告した。

J E N D L - 3に関する議論が行われ、J E N D L - 3を広く利用して貰うためには、評価データの詳細な検討と宣伝が必要なこと、そのためには、評価者とベンチマークテスト側との会合を行い、早急に問題点を検討する必要があることが指摘された。

## 6. 国際会議準備状況

五十嵐氏から国際会議準備状況の報告があった。

10月29日、12月3日の国内プログラム委に続き、12月15、16日パリで国際プログラム委を行った。それをもとに配布資料7と8に示したプログラムを作成した。現在、採用通知とプロシーディングスの原稿用紙発送の準備を行っている。

## 7. 人事

資料11により、浅見氏からシグマ特別専門委員の改選の経緯について

説明があり、検討の結果、63年度は主査を改選するとともに、委員の改選も行うことを確認した。

## 8. その他

### 1) 核データ評価のアンケートについて

前回の運営委員会で評価アンケートを核データ専門部会でまとめることにしたが、その後、JENDL編集グループに変更したことを村田氏が報告した。

### 2) 照射損傷の研究会が3月11日(金)国立教育会館で開かれることを飯島氏が報告した。

### 3) 同じく飯島氏から原子力学会の崩壊熱研究委員会について報告があった。次回の会合は2月4日に行われる。

### 4) Benchmark Comparison of Decay-Heat Codes (配布資料9)について崩壊熱WGで検討し、1月末までに意見を五十嵐氏まで知らせることとした。

## 9. 核データ研究会の反省

1987年核データ研究会の参加人数等について浅見氏から報告された。続いて研究会実行委員長瑞慶覧氏から研究会全体について次のような反省があった。

○2日間では若干ハードスケジュールだった。

○会場となった普及センターは、原研のABC会議室より良かった。

○ポスターの場所が狭かった。

○テーマについてはアンケート調査を行い、応募した発表を全て盛り込んだのでハードスケジュールになった。

○自由討論は時間が足りなかった。

○予稿集のページ数を増やしてみたが、来年は当日に Proceedings の原稿が出来る位早目に準備した方がよい。

○OHPは非常に見づらかった。

研究会の後、核融合関係のデータ(Be、Pb)の検討会を12月25日、26日に行った事が水本氏から報告された。

## 10. 核データ活動の将来計画

資料10をもとにNEA Data Bankの組織変更について五十嵐氏が説明した。この様に世界的に核データ活動が様変わりしている中で日本の核デー

タ活動はどうであるべきかを議論した。

#### 11. シグマ委員会63年度活動計画

五十嵐氏が研究会とは別に「専門家会議」を考えてはどうかと提案した。これに対しては、WGの開催回数を減らさないなら良いとの意見があった。63年度の旅費については各専門部会長からWG会合回数の予定を出してもらい事務局が予算案を作成することにした。

#### 12. 専門部会63年度活動計画

##### 核構造データ専門部会

- 1) 核種生成量評価WGの63年度計画案（配布資料12）を中嶋氏が説明した。このWGは62年度に会合を開いていない。次回の運営委員会にグループリーダーの内藤氏に出席してもらって今後の方針を議論することにした。
- 2) 医学用原子分子・核データWGの63年度計画案（配布資料13）を中嶋氏が説明した。しかし、この案では不十分なので、中井氏、沼宮内氏、喜多尾氏にさらに検討してもらおうとともに、WGを1度開いてもらうことにした。
- 3) 崩壊熱評価WGについては配布資料14により吉田氏から説明があった。62年度は中性子断面積の部分を除いてJNDC FP崩壊データライブラリー第2版を完成させた。63年度は、誤差評価、指数関数 fitting、 $\gamma$ 線スペクトル、第2版のドキュメント作成、アクチニド崩壊データ等についての作業を行う予定。

#### 13. 今後の旅費使用予定について

事務局から今後の旅費使用案が出され了承された。

#### 14. その他

次回は2月8日（月）東京で行う。